

平成30年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第四中学校第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 内容を整理して言葉を選び、必要なことを書く力。 文章を書く上で適切な助詞を用いて書く力。 文学的文章において心情を読み取る力。 	<ul style="list-style-type: none"> ノート指導、作文指導等、「書く」機会を意識的に増やすよう心掛ける。 視写課題を通して書く力をさらに高めるとともに、文章を読み解く力を養っていく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算問題の定着 家庭学習の習慣化 数学的な見方・考え方の問題を解く力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算問題に数多く取り組ませる。 話し合い活動に繋がるような課題を設定し、考えを互いに伝え、共有する場をつくる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで考えようとする姿勢の育成 表現力及び資料活用力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な資料等を活用するとともに、小集団による活動の場を増やす。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自ら考え、その考えを表現する力の不足 身のまわりの現象を科学的に探究しようとする意識の低下 実験などにおいて、これまでの経験を生かして想像したり、行動したりする力の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が考える時間や行動する時間を十分に確保するとともに、意見交換や実験を含めたグループワークの機会をより一層増やす。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な演奏技術や読譜力の低下。 日常生活の中での音楽文化を知る機会の減少により、基礎的な知識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導や、グループでの学び合う機会を増やし技能の向上を図る。 表現や鑑賞の活動を、その都度音楽のもつ特性を確認し、知覚・感受しながらすすめていく。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 絵の具や、はさみ・のりといった身近な道具を、安全に的確に使いこなす力の低下。 自国、諸外国の美術文化を学ぶ機会の減少。 日常生活の中に様々な美術的要素があるという視点の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術史をタイムトラベル形式で疑似体験させる授業を通して、歴史や美術文化に興味を持たせる。
保健体育	<p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎運動能力が低い。 競争心が低い。 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動能力が低い。 競争心が低い。 	<p>(男子)</p> <ul style="list-style-type: none"> アップ、補強運動、ダッシュ、メイン練習等で運動能力向上を図る。 <p>(女子)</p> <ul style="list-style-type: none"> 補強運動を工夫し、運動能力向上を図る。
技術・家庭	<p><技術></p> <ul style="list-style-type: none"> 文房具や工具の使い方について器用でないと感じる。 板書のとり方、大事な話を記録するなど課題を感じる。 <p><家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> 効率よく製作するための手順を理解できない。 用具の扱い方に慣れていない生徒が多い。 	<p><技術></p> <ul style="list-style-type: none"> 工具等については図解し、授業者として全体を把握し、苦手な生徒をケアしていく。 板書を色分けするなどわかりやすく工夫し、大切な箇所はその都度説明を行う。 <p><家庭></p> <ul style="list-style-type: none"> 実物見本を使って段階的に説明し、自発的に活動できるようにする。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に学習して積み上げていく習慣が身につけておらず、小テストに対する意識が低い。 活動への取り組みから関心や意欲は見えるが、間違いを恐れて発言しない生徒が一定数いる。 感覚的に正しい語順で文を書くことと、文法知識を正確に使って正しい文を書くことについてのどちらも十分な力があると言えない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> こまめに単語テストを実施し、各自が最適な練習量や方法を見つけられるように習慣づける。 簡単な質問は指名制にするなど発言の機会を増やし、「できた」「合っていた」という安心感、達成感を得られるようにする。 より多くの例文に触れて音読の機会を増やし、目だけでなく耳でも感覚的に正しい英文を捉えられるようにする。